

26年度1級管工事施工管理技士 実地試験 解答試案

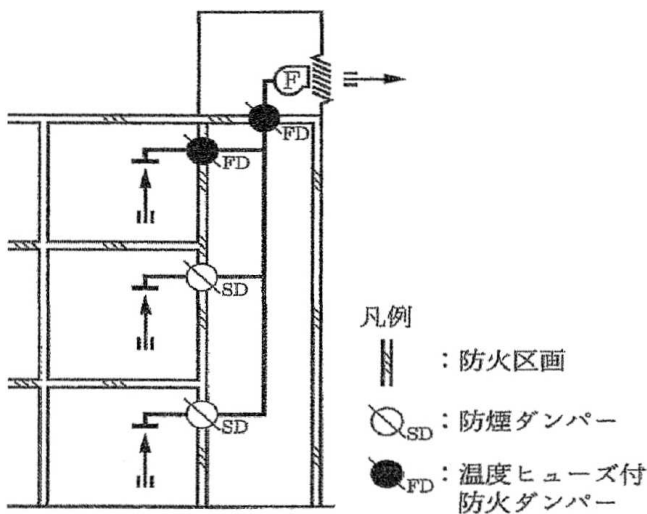
2014/12/8 2014/12/9

■下記は受験者の皆様の参考にあ資するため、当社が作成した解答の試案です。試験実施団体の発表によるものではありません。

【NO. 1】

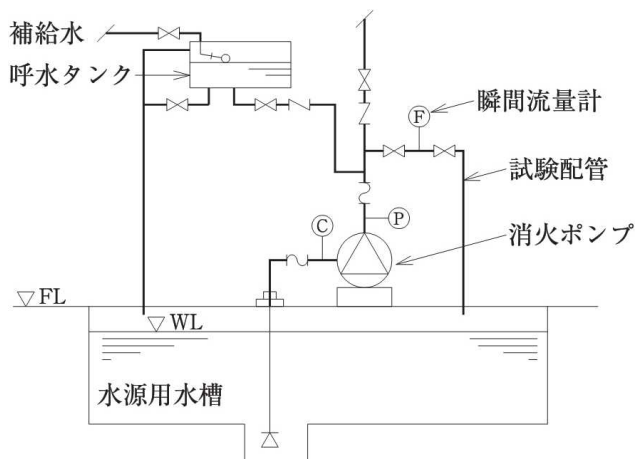
【設問 1】

下記の箇所に防煙ダンパーを設置する。

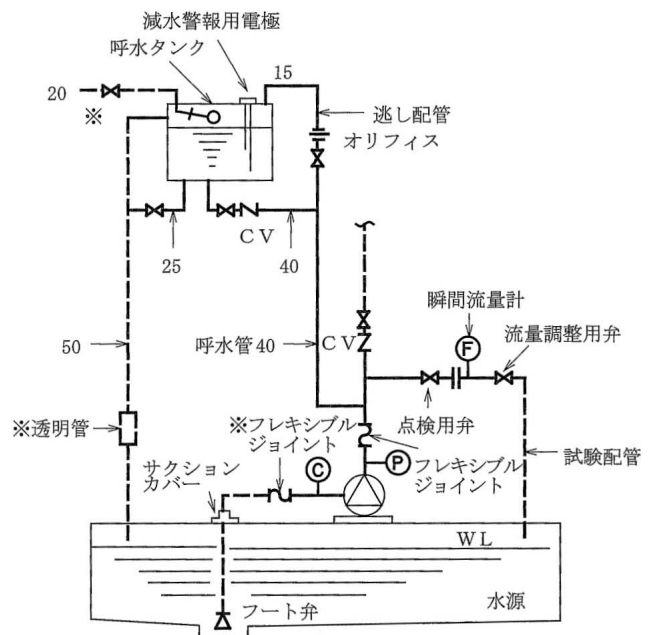


【設問 2】

(イ) 問題図



解答参考図 下図のように逃がし管を入れる



(ロ)

逃がし管を設ける目的

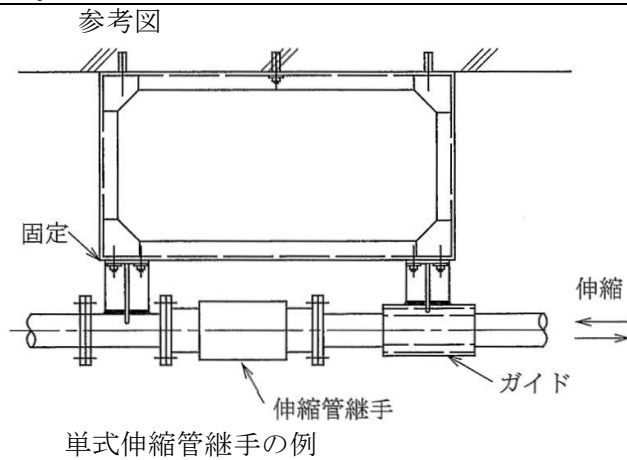
ポンプの締め切り運転時、ポンプ中で水温が上がらないようにするため、逃がし配管を設ける。

[設問 3]

(3)

適切でない部分の改善策

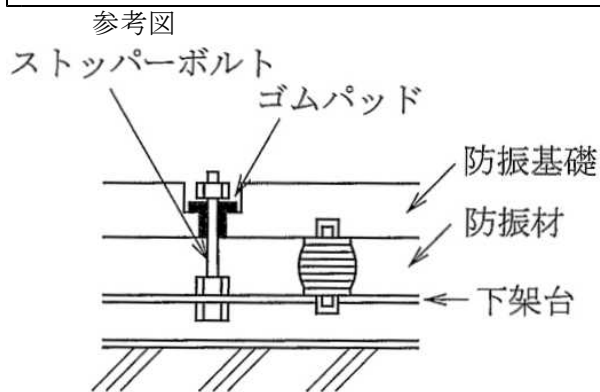
問題図では継ぎ手左側のみの固定となっており不適當。さらに継ぎ手右側にガイドを設け固定する。



(4)

適切でない部分の改善策

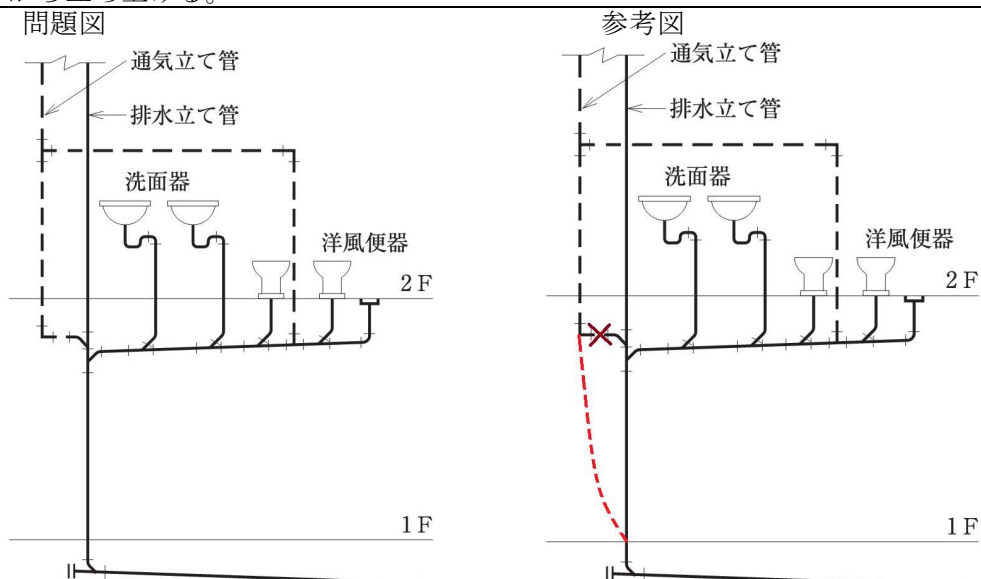
問題図ではストッパーボルト上部に防振用のゴムパッドが付いていないので取り付ける。



(5)

適切でない部分の改善策

問題図では通気管が2階排水横枝管の上部から立ち上がっており不適當。一階排水横主管近傍から立ち上げる。



【NO. 2】

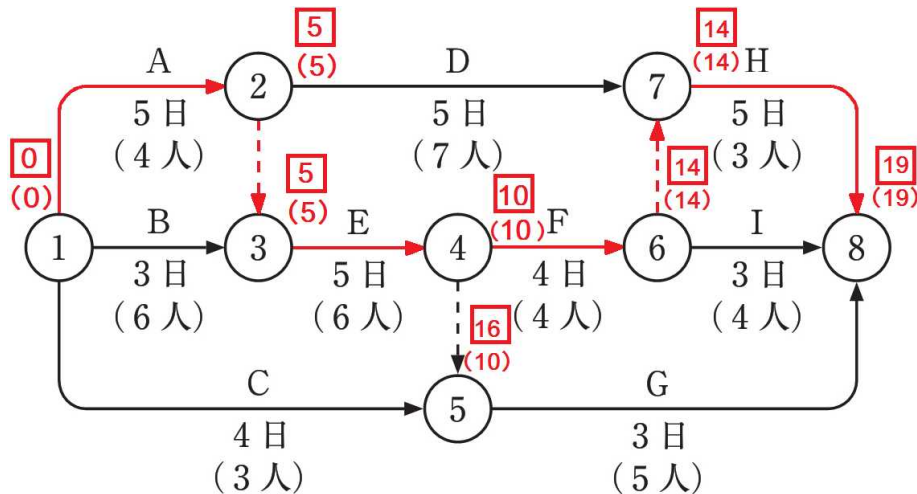
- ① 送風機の配置はその配管、配電線、冷却水等が能率よく配置されるよう、また 最低限送風機の周囲から自由に点検できるスペース確保出来るよう据え付ける。
 - ② 送風機のレベルは原則としてシャフトを基準とし、水準器で検査しながら、必要においてライナーを用い水平に据え付ける。
 - ③ 管の重量が送風機にかからないよう支柱、つり金具等を送風機の吸・吐出口に近い所に設ける。
 - ④ 送風機とプーリーの芯出しは、外面側に定規、水糸などを当て出入りを調整して行う。
 - ⑤ Vベルトの張り方は、停止中に両プーリー間を指で軽くおさえて、使用ベルト1～2本分位のたるみ程度とする。
- などー。

【NO. 3】

- ① 熱による配管の伸縮を考慮し、伸縮継手を挿入するか、スィベル継手で配管する。
 - ② 横走り配管において、径違い管を接続する場合は、空気だまりの原因となる段差を生じないように縮径するレギュレーターを使用し、ブッシングは使用してはならない。
 - ③ 機器回りの配管は、保守又は更新のため取り外しが容易になるように施工する。
 - ④ 主管の曲部は、原則としてベント管を使用する。
- などー。

【NO. 4】

設問のネットワークの最早結合時刻、最遅結合時刻は次の通り。



【設問 1】

クリティカルパス
A - E - F - H

【設問 2】

10日

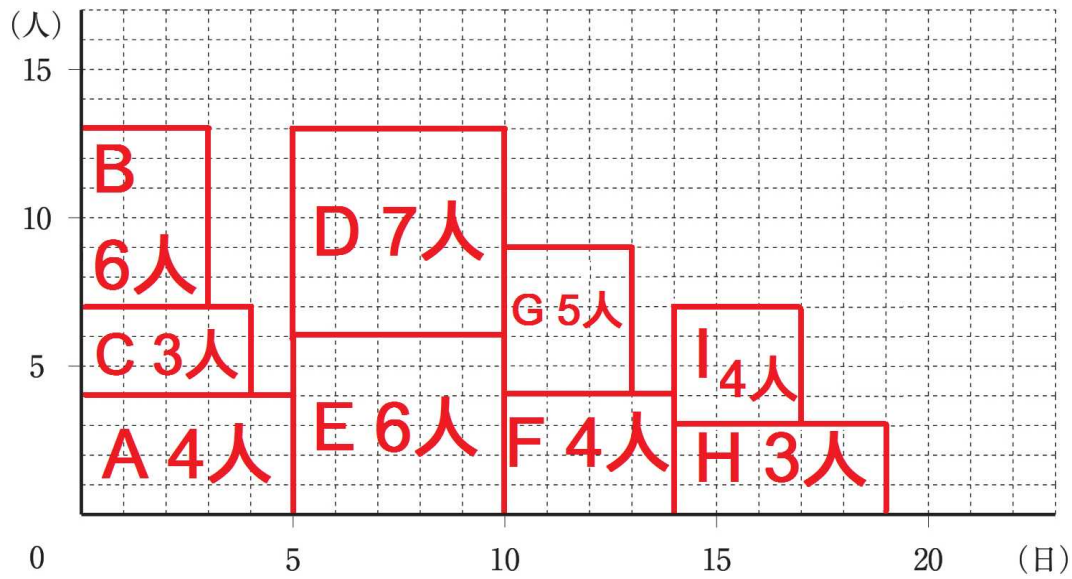
【設問 3】

16日

【設問 4】

- ① クリティカルパスのルートを決定する
- ② 各結合点におけるフリーフロート、トータルフロートの算定に用いる

[設問 5] 最早結合時刻による山積み図



【NO. 5】

[設問 1]

A	B	C	D
安全管理者	3	40	特別の教育

[設問 2]

地山の掘削作業主任者
ガス溶接作業主任者
土留め支保工作業主任者

【NO. 6】

[設問 1] [設問 2] [設問 3] は施工経験記述問題により省略

■ 試案に関する問い合わせ、ご指摘は下記にて受け付けております。

TEL022-738-9312 FAX022-738-9365

TGK(株)東北技術検定研修協会

e-mail info@tohokugiken.com

〒980-0802 仙台市青葉区二日町13-26

TEL 022-738-9312

FAX 022-738-9365